

災害復旧事業によせて

平成20年災 山田川河川災害関連事業について



富山県南砺市長
田中幹夫

1. はじめに

南砺市は富山県の南西端に位置し、平成16年11月1日、城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町の8町村が合併して誕生した市です。北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は医王山を介して石川県金沢市、南部は1,000~1,700m級の山岳を隔て、岐阜県飛騨市及び白川村と接しています。

市の人口は5万5,589人（平成23年1月31日現在）。面積は、668.86km²（東西約26km、南北約39km）で、琵琶湖とほぼ同じ広さとなります。山間部は、白山国立公園等を含む森林が約8割を占め、優れた自然を残しており、平野部に広がる水田地帯は、全国でも珍しい「カイニョ」と呼ばれる屋敷林に囲まれた住居が点在する「散居村」として知られているなど、豊かな自然景観に恵まれています。

歴史・文化面では、井波彫刻や五箇山和紙などの伝統工芸をはじめ、重要無形民俗文化財に指定されている「城端曳山祭」や「五箇山民謡」など、香り高い文化資源を有しており、中でも岐阜県に隣接する五箇山地域には、世界文化遺産に登録された「相倉・菅沼」の両合掌造り集落があります。

高速交通網も整備され、東海北陸自動車道の全線開通により愛知・岐阜方面との交通アクセスが便利になったことで、観光客数も飛躍的に増加しています。

南砺市の気候は、典型的な日本海側気候で、山間部が特別豪雪地帯に指定され積雪量が多く、「平成18年豪雪」などの大雪被害に遭うことはありますが、穏やかな気候・風土が示すとおり、合併以前から大規模な災害とは無縁でした。



南砺市の位置図



2. H20. 7. 28豪雨災害の発生

平成20年7月28日(月)、未明から市内を襲った凄まじい豪雨は、市民生活や企業活動のほか農地、森林など市内各地に多大な被害をもたらし、まれにみる大災害となりました。

当時の気象発表では、午前5時34分県内全域に大雨・洪水警報が発表され、午前7時には土砂災害警戒情報も発表されました。福光・城端・井口・平地域では、3時間に150mmを超える豪雨が襲い、河川下流域の城端・福野地域には避難勧告も発令されました。

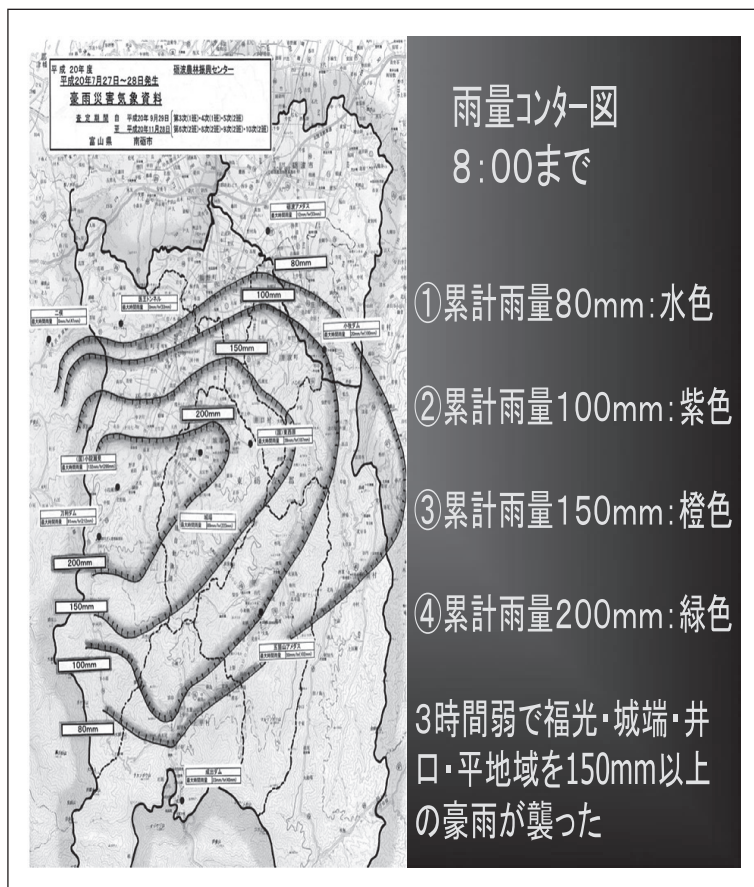
福光・城端地域を中心に、住宅の全半壊や浸水被害、道路欠所や土砂崩れ、河川の氾濫・越水、田畑の冠水、停電・断水、通行止めによる集落の孤立等多くの被害をもたらしました。また、河川・砂防を含む公共土木施設の被害額は50億円以上、農林水産関係の被害額も40億円を上回るなど、市内各地に大きな被害をもたらしました。

今回の災害は、「百年に一度」と報じられるほど、誰もが経験したことの無い規模にもかかわらず、人的被害が軽傷者2名だったことが不幸中の幸いでした。

3. 山田川河川災害関連事業について

今回の豪雨により山田川（南砺市南部の標高1,132mの高落葉山及び標高1,075mの小瀬峠にその源を発し、越中の小京都と称される城端地域中心部を貫流し、砺波平野の田園地帯を北西に流下し、南砺市川崎地内にて本川小矢部川に合流する流域面積102.2km²、流路延長19.7kmの一級河川小矢部川水系の右支川）では、河川護岸の決壊や流下能力不足により、家屋や工場への浸水被害が発生しました。

山田川については、県が被災した区域の護岸を原形復旧ただけでなく、流下能力の向上などによる再度被災を防止するための災害関連事業を、平成21年3月から平成22年12月までの3カ年をかけ、越水により被害があった区域において盛土による堤防の高上げ等を実施されました。



小矢部川水系山田川河川災害関連事業の概要

◇福光井口工区（高島～利波河）L=870m

事業費 154,072 千円（査定決定額）

護岸工 A= 2,070 m²

水路工 L= 1,116m

築堤工 V= 9,300m³

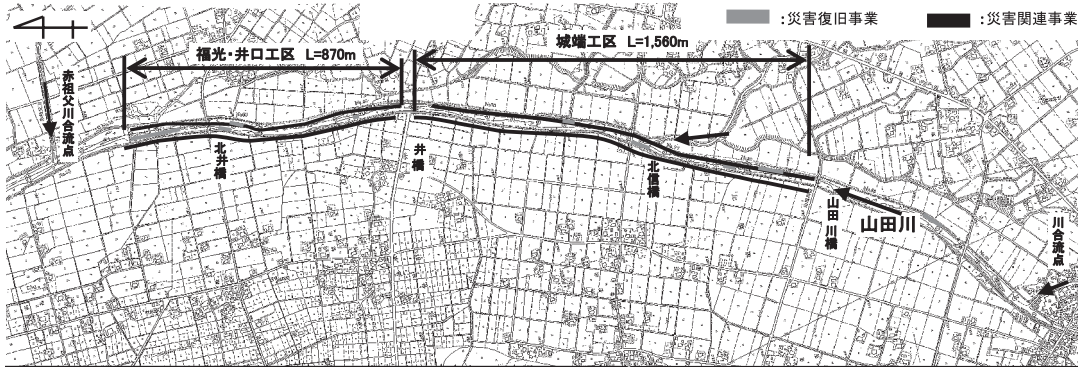
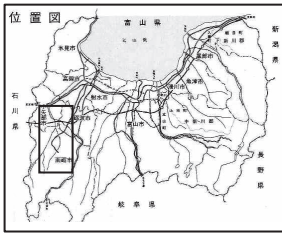
◇城端工区（利波河～是安）L=1,560m

事業費 270,521 千円（査定決定額）

護岸工 A= 2,389 m²

水路工 L= 2,600m

築堤工 V= 21,300m³

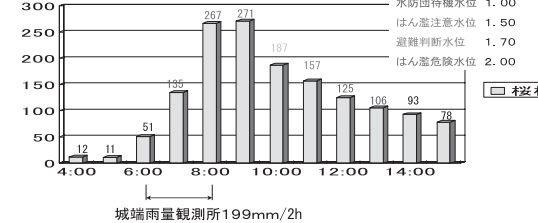


被災時の気象

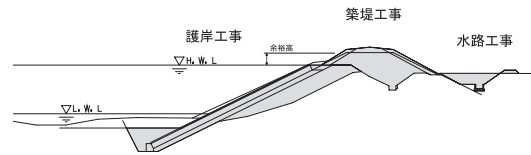
7月28日の降雨量

城端観測所 時間最大雨量 110mm/h(6~7時)
 2時間雨量 199mm/2h(6~8時)
 総雨量 236mm (5~9時)

7月28日の山田川の水位(桜橋)

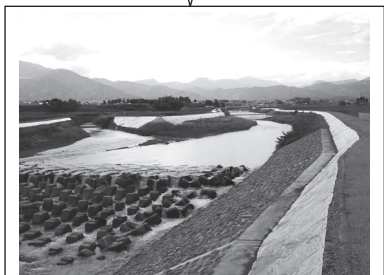


災害関連工事の概要



護岸工…災害前の原形(高さ、構造)まで復旧
 水路工…築堤工の支障となる水路、農道を平行移動
 築堤工…再度災害を受けないため、必要高さまで改良復旧

となみがわ やまだがわ
利波川・山田川合流付近



やまだがわ のみすえ
山田川 信末地内



やまだがわ これやす
山田川 是安地内



本省防災課 大谷総括査定官 現地調査

4. 課題と今後の対応

①土砂災害について

今回の災害の特徴は、ダムのある河川では甚大な被害はありませんでしたが、溪流や小河川については、短時間に降雨が集中したことで、瞬時に立木と土石を巻き込んで押し流す土石流となり、大量の流木が下流の橋梁や河川の蛇行部で河川を閉塞させて氾濫流出し、農地や民家に多くの被害をもたらしたことです。

流木被害の防止対策として、県内では、流木捕捉効果の高い「スリット型砂防堰堤」の積極的な採用や、山間地域での人工林の手入れといった山林整備など、総合的な流木防止対策を検討いただき、現在も継続整備を行っていただいているところです。

また、透過型堰堤と不透過型堰堤の使い分けや、治山堰堤と砂防堰堤など他事業との連携など、これらを組み合わせて整備することも重要と考え、要望しているところです。

②情報伝達について

今回の災害では、通勤・通学の慌ただしい時間帯に経験した事のない降雨がゲリラ的に発生し、初動体制が十分に取れませんでした。

人的被害は幸いにも軽傷者 2 名でしたが、的確な情報の収集と伝達が、住民の生命を守る上で大変重要な役割を占めていると痛切に感じたいであります。

今後は、災害が発生した場合でも被害を最小化する減災を目指したソフト面が重要と考え、早速平成 21 年度に洪水ハザードマップを作成し、全戸

に配布したところです。

また、今年度から、土砂災害ハザードマップを順次作成して配布する予定にしており、被災の教訓を忘れることのないよう、地域住民と行政が一体となった防災意識の高揚に繋げていきたいと考えています。

5. おわりに

今回の災害に対しては、全国各地の個人、団体、企業の皆様からたくさんの災害義援金やお見舞いを寄せていただき、本当に、ありがとうございました。

義援金やお見舞いは、被災された方への支援や地域再建と復興見舞金として、地域へ配分させていただきました。

心よりお礼申し上げます。

また、床上浸水住宅の復旧や各種災害復旧及び被害調査に際しては、多くの民間ボランティアの方や、近隣市町村の職員の方々、そして被災地の早期復旧のため迅速な対応や指導をいただいた国・県をはじめ関係機関の皆様に、改めて感謝申し上げます。

被災直後から取組んでいただきました山田川河川災害関連事業も、平成 22 年度末で完了との事で併せて感謝申し上げます次第であります。

この災害を教訓に、安心安全な「災害のない街づくり」を目指し、国・県の更なる予防対策のご支援をいただくと共に、昨今の異常気象に対応できる危機管理システムの構築と、市民協働での街づくりにまい進する考えです。